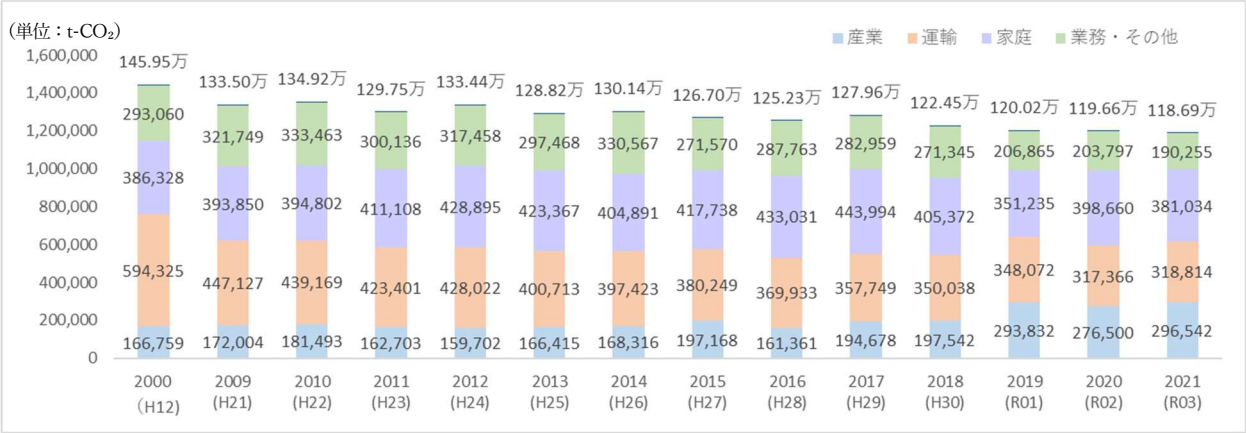


環境モデル都市の取り組みについて(概要)

1. 帯広市内からの温室効果ガス排出量の推移

- 令和3年度における帯広市の温室効果ガス排出量は118.69万t-CO₂です。
- 基準年（平成12年度）と比べ18.6%減少、前年度（令和2年度）と比べ0.8%減少しました。
- 前年度（令和2年度）と比べると、家庭部門と業務その他部門による排出量は減少し、産業部門と運輸部門による排出量は増加しました。
- 家庭部門による減少は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛が緩和された影響で在宅時間が減少したことによるものと考えられます。
- 産業部門による増加は、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた経済の回復等によるものと考えられます。



※基準年の排出係数（平成12年度）のものに固定して算出

2. 環境モデル都市行動計画の取組による温室効果ガス削減量の推移

- 第1期の温室効果ガス削減量は、計画値に対し7割程度の進捗程度でしたが、第2期では9割以上、令和元年度以降は10割を超える年度もあり、着実に削減実績が伸びてきていると考えております。
- 令和3年度は、家畜排せつ物等の利活用の推進や事業者による太陽光発電システムの導入が進んだことなどにより、温室効果ガスの排出量削減が概ね順調に進んでいます。

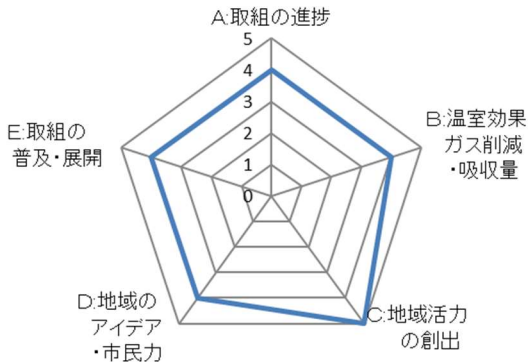
(単位：t-CO₂)

	第1期					第2期					第3期				
	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)
計 画	27,137	44,814	61,404	78,998	120,957	139,998	158,452	176,832	197,210	224,294	251,628	270,638	289,400	308,185	327,035
実 績	18,096	33,958	42,349	56,848	84,372	132,110	148,998	167,328	191,651	219,132	255,033	271,442	280,726		
達成率	66.7%	75.8%	69.0%	72.0%	69.8%	94.4%	94.0%	94.6%	97.2%	101.4%	100.3%	100.3%	97.0%		

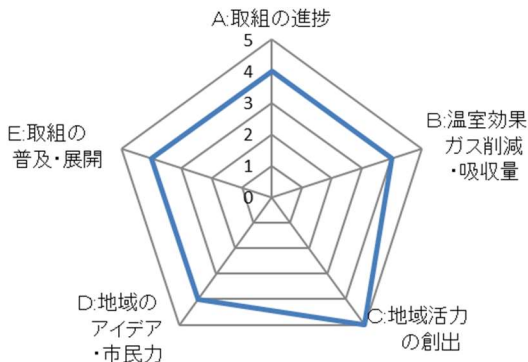
※アクションプラン策定時の排出係数（平成18年度）のものに固定して算出

3. 令和4年度の取組評価

R3年度評価



R4年度評価(案)



令和4年度の取組の進捗状況、令和3年度の温室効果ガス排出量・吸収量・削減量を、以下のA～Eの5つの指標で評価するものです。

A:取組の進捗

- 令和4年度の取組における進捗状況は、「追加/前倒し/深掘り」を行ったものが9件（約16%）、「ほぼ計画通り」が45件（約80%）、「予定より遅れ/予定量に達せず」が2件（約4%）であり、概ね順調に取組が進んでいます。
- 市内の企業が産業技術総合研究所の「令和4年度地域オープンイノベーション力強化事業」として、「産総研技術シーズを活用した地産地消バイオマスバーナーの高付加価値化・実用化実証試験」を実施し、帯広市としても意見交換会に参加するなど、バイオマスの地産地消に寄与する取組を推進しました。
- 小中高生を対象とした環境にやさしい活動実践校や帯広らしい環境教育プログラム、市民を対象とした出前環境教室等の環境教育により、地域に環境保全の実践行動が広がっており、家庭部門における温室効果ガス排出量削減の促進に繋がっています。また、JICA 北海道（帯広）では、開発途上国の研修生に地域資源を活用した環境保全を目的とする研修を行っており、市内に留まらず、国外にも広く環境保全の啓発を行っています。

B:温室効果ガスの削減・吸収量

- 温室効果ガス排出量は前年度と比較すると、実排出係数で算出した場合4.3%の減少となっています。また、毎年変動する排出係数の外部要因を排除するため、行動計画策定時の排出係数に固定し算出した場合は、0.8%の減少となっています。
- 行動計画の取組による温室効果ガスの削減量は、28.9万t-CO₂の削減目標に対して28.1万t-CO₂となっており、達成率は97%となっています。

C:地域活力の創出

- 環境リサイクル施設の集積と緑のネットワーク形成による温室効果ガス削減・吸収を目指す、中島地区エコタウンの造成に向けて用地を取得しました。
- 家畜排せつ物等の堆肥施用等が順調に進んでおり、廃棄物の削減とともに地域資源の域内循環に寄与しています。

D:地域のアイデア・市民力

- 家庭から発生する庭木の剪定枝を無料回収し、チップ化して家畜敷料や堆肥として有効活用しています。
- 家庭用廃食用油の回収や清掃ボランティア活動など、市民参加型の取組が定着しています。家庭からの廃食用油の回収量は増加してきており、地元路線バスに軽油の代替燃料として活用しているほか、廃棄物の削減にも繋がっています。

E:取組の普及・展開

- 広報紙やホームページにより幅広く市民に情報発信し、COOL CHOICEの普及促進を図りました。
- 参加型プログラムによる出前環境教室を実施し、環境問題と自らの生活行動が密接に関係すること等への認識を深め、環境保全のための具体的行動に結びつけるきっかけづくりを行いました。
- 十勝定住自立圏構想の枠組みを活用し、6～9月に、十勝管内19市町村の自治体職員が一斉にマイカー通勤の自粛に努める「とかち一斉ノーカーデー」を実施しました。帯広市だけでなく、十勝管内の自治体職員が丸となりマイカー自粛の普及啓発を行いました。